



学術会議報告

物理学委員会天文学宇宙物理学分科会・幹事

杉山 直

マスタープラン 「学術大型研究計画」

- 前期の学術会議で、初めてマスタープランを制定
- G8等で日本の方針として披露することが目的の一つ
日本版Decadal Survey
- 100億円以上の大型計画、ないしは複数の機関間の
連携による大型施設計画。National Flagship!
- 当初2010年は43計画。天文系では、重力波干渉
計（KAGURA）、TMT、SPICA、ASTRO-H、SKA
- 2011年にマイナー改訂し、46計画に。

マスタープランの功罪

- 功：文科省の審議会と連携することで、ボトムアップの計画提案をする道筋を開いた
- 功：KAGURA、TMTなどが実際に予算化された
- 功：これまで、コミュニティで将来計画を話してこなかったような分野でも初めて考えるようになった
- 罪：準備がきちんと出来ていた分野（例えば天文）とそうでない分野で、マスタープランへの対応に大きな差が出た

天文学や素粒子物理の分野など一部の分野だけが、うまくやったので、というような声が、学術会議の他の分野からわき上がって来た

マスタープランの改訂

- 当初から3年ごとに見直すことを決めていた
- 2013年が改訂の年（実際には2014年）
- 今回は、「公平」、「透明」を旨に行なう
 - 公募システム
 - 分野（31）ごとにキャップをかけて応募する
 - 分野の下に、研究領域、200ほどある
- 数は210計画ほど。規模が数十億円以上
- ひと分野10個以下、各領域1個程度？
 - 我々は、「物理学分野」の一部
 - 物理学は、物性一般物理、素粒子原子核、天文学宇宙物理の3つの領域

天文・宇宙では3個？？？→物理では、各々10個ずつを目処に出すことにした

分科会の活動

- 前期は、「天文学・宇宙物理学の展望と長期計画」(139p)をまとめた。100億円以上の計画が対象
- 今期は、そのとき取りこぼした中型計画（科研費ではできないが、100億円未満）を検討する
- ヒアリングや、各コミュニティに対して、推薦の依頼をすすめていた
- ところが、新しいマスタープランが中規模を含むものとなった

分科会として、中型計画も一緒にマスタープランに含めて検討をすることとした
ただし、中型計画についても、分科会として独自にまとめを行なう

「学術大型研究計画」の公募 について

- 区分I：新規計画、実施期間 5-10 年程度、および予算総額数十億円超（上限は特に定めない）の予算規模
- 区分II：これまで取り上げられていて、進行中のもの（KAGURA、TMT。ASTRO-Hがこれに相当）
- 提案：(i)研究・教育機関の長または部局長等、(ii) 日本学術会議会員、連携会員、(iii)学協会長等
- 推薦：日本学術会議会員もしくは連携会員 3 名以上（会員 1 名を含むこと）
- 期間：2月15日（金）～3月31日（日）

分科会の対応

- コミュニティに呼びかけ、順位をつけて計画を提案してもらった
- 2月の分科会で、ヒアリングを行い、推薦する8計画を決定した。
 - SPICA、SKA、SOLAR-C、LiteBIRD、CTA、南極望遠鏡、JEM-EUSO、DIOS
- ここで推薦することになった計画については、提案者、推薦者の割り振りを行なった。推薦者のうち、一名の学術会議会員については、物理学委員会から割り当ててもらったこととした。
- これとは独立に、中規模計画のシンポジウムを5月28日、29日に行なう